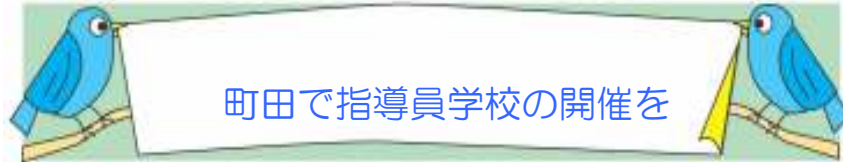




くれよん

2007年8月24日 第43号
NPO 法人町田市学童保育クラブの会
所在地 町田市忠生 3-12-11
電話 042-791-2556
広報委員会 発行



毎年、児童青少年課主催の研修会は3～4回開催されていますが、午前中行われる研修では、保育実践に関する情報交換や交流をあまりできないのが現状です。町田市内の公立クラブと社協委託クラブの指導員は、日常的に研修会を開催していますが、市内全クラブによる合同の研修が行われていませんでした。

そこで、2007年度「指導員学校」の開催を企画しました。指導員学校の目的は、次の2点です。

- * 町田市内の学童保育指導員の保育実践交流を図る。
- * 学童保育指導員としての専門的知識の向上を目指す。

現在、指導員会および事務局が中心となり、市内の学童保育事業を行っている各法人等によびかけ、9月の実行委員会結成にむけて準備を行っています。

先日、児童青少年課へ申入れを行ったところ、場所の予約、他クラブへの情報提供等に関してご協力をいただけることとなりました。また、秋には市内全クラブをブロックごとに分けてテーマ別に研修を行う予定であるとのことでした。

保育実践の交流、情報交換等を全クラブで行う機会が増えることは願ってもないことであり、今回の指導員学校が、その機会の一つとなることを目指していきます。

開催日： 2008年2月17日（日）
10：00～16：00
会場： 町田市教育センター（予定）

午前中は全体講義を行い、講師には、茂木俊彦先生（桜美林大学教授）を予定しています。

午後はテーマ別の分科会をもうけ、保育理論、実践に関する内容を企画しています。9月に実行委員会体制が確立しましたら、分科会の内容検討、講師依頼等を行っていきます。

より多くの町田市内の学童保育の指導員の方々が一同に集える指導員学校となるよう、努力を行いますので、ご理解とご支援をどうぞよろしくをお願いします。



今期で退任された理事・監事のみなさんにひと言いただきました



遠藤 往子さん（おおくら）

右も左も分からないうちの2年間でした。私は子どもが1人ということもあり、学童保育に関わるのは3年間、そのなかで学童保育を理解し、現状を把握するのは大変なことだと実感しました。仕事の関係で小学生・中学生と接する機会があるのですが、その度ごとにエネルギーをもらい、同時に大きな夢を見ることができる社会を作っていかなければと思っています。これからも学童保育から社会への発信をし続けてほしいと願っています。

本 美鈴さん（あおぞら）



理事としての1年間、分からないことも多く会合への出席も不安定でいろいろご迷惑をおかけしました。でも、指導員の先生方の頑張りをより身近に感じることができ、学童の存在の大きさを改めて認識した1年でした。自身の子どもは卒会しましたが、これからの子どもたちの笑顔のために、できることはお手伝いしたいと思っています。今期は監事として法人の活動に携わっていきます。よろしくお願いします。

小島 馨さん（どろん子）



この6月までの2年間、どろん子クラブから法人理事をやらせていただきました。理事のキーワードは①経営責任②年間50回の会議（当時）出席③指導員や保護者会とのコミュニケーションをマメにとること、以上この3点をいかに楽しんでこなしていけるか、ということだったように思います。ボランティアですから、これらをすべてやっていくには「楽しむ」しかほかに方法はないと思います。「僕の場合は趣味」というもう何年目かの他クラブの現役理事もいらっしゃいます。私の場合は「その会議に行く与会いたい人に会えること」を楽しみにしていました。会いたい人の何人かは固定メンバーですが、何人かは移りかわり（マイブーム）もありました。会議に出ていくと、皆さん個性派ぞろいなので面白くて、話す人間関係もできてきます。すると、それぞれの会議でのそれぞれの役割ができてきます。私の役目は「男の人が言うとケンカになるところを私が言うことでそうはならずすむ」「わかりにくいことはわかりませんといえる」くらいのことだったと思いますが、実はこれが結構スリリングでした。

これからの法人について望むことは、ひとつだけ。現場の指導員たちにはいつも元気でいて欲しい、ということです。親子の関係にもいえることですが、指導員が元気でないと、気持ちに余裕がないと目の前の子もだってそうなれないから。現実は大変です。ほとんどのクラブが定員を大幅に上回る児童数を抱え、指定管理者制度に縛られ、それらに伴って連日の夜、平日も休日も無数の会議や研修を行い、翌日の保育の準備をし、子どもと日々向き合い、保護者や地域の対応、いくつもの書類作り、その上、それぞれのクラブの問題を抱え、なおかつ町田市全体の保育の質を上げるための取り組みをし・・・法人の指導員は本当に働き者ばかりで頭が下がります。「ちゃんと家族とごはん食べてる？」と聞きたくなります。それでも指導員たちが、仕事のハードさを理由にやめたりしていないということは、法人には何かしらの魔物、あ、いえ魅力が住みついているのかもしれませんが。だから私も理事をひきうけたのかもしれませんが。この法人の核は、指導員です。どうか、元気でいてほしいです。そして日々のご自分のがんばりを誇りに思ってください。

公の場での発言はこれが最後と思い、好き勝手に書かせていただきごめんなさい。皆さん、本当にお世話になりました。私は「町田市学童保育を考える会」の人としてがんばります。皆さんとは、9月15日の第25回町田市学童まつりでお会いできるのを楽しみにしています！では。

高山 恵子さん（おおくら）



監事を4年間務めました高山です。1994年に「大蔵に学童を作る会」の会長として大蔵学童保育クラブの開設準備に当たり、経理や労務などについてあわてて勉強し、翌年から試行錯誤しながら運営しました。NPO法人になってからの事務は本格的なもので、運営委員会時代のものとはレベルが違いますが、学童保育の経理の特殊性は理解していたため、未熟な監査でしたが何とか4年間続けてこられました。どうもありがとうございました。



ほかに、井出理事（そよかぜ）平野理事（なかよし）内川理事（わんぱく）が退任されることになりました。ありがとうございました。



👤👤👤 7月より、新しい委員会活動がスタートしました。今後法人がめざすべき方向は何か、委員会活動で調査・研究を行います。今回は、その委員会活動を紹介します。👤👤👤👤👤👤👤👤👤👤👤👤

☆調査研究委員会☆



「保育分野」

保護者の方から学童クラブを卒会後の生活、特に夏休みの長い一日を家で留守番をすることの心配・不安が寄せられています。指導員会で調べてきた中では、小山地域で「種まく人」鶴川地域で「みんなのそら」といったところが、小規模ですが高学年保育をしています。また、成瀬あおぞらクラブを卒会した保護者たちが同好会をつくり、昨年の夏休み、近くの自治会の集会所を借りて、保護者が交代で、週に2回高学年保育をおこないました。子どもたちにも保護者にも好評でしたので、今年の夏もとりくもうと計画中です。

そこで、法人として来年の夏を目途になんらかの形で高学年保育がスタートできないかということを検討していくことになりました。実際にどのくらいのニーズがあるのか、どのような保育を望んでいるのか、アンケートをとり、具体化をしていく予定です。(勝亦)



「子育て支援」

主に健全育成事業に関連する分野、子育て支援を検討するグループです。このグループでは学童クラブ以外のところでの子どもたちの居場所、遊び場はどんなところにあるのか、どんなところに必要なのか、話し合っています。地域の子どもたちと一緒に、自然の中で思いっきり身体を動かせるあそび場、子どもたちが興味や関心をもってとりくむことができ、一人ひとりの居場所になるような遊び場を探し求めていきたいと思えます。「遊び」は子どもたちが身体的、精神的、情緒的そして社会的に成長していくための力となるものです。この委員会ではこどもの立場から「夢」を語り合いながら、現実なものに近づけていきたいと思えます。(横山)



「児童館・子どもセンター」

町田市における児童館(子どもセンター)は、現在の「ばあん」「つるっこ」に加え、堺地区に来年度新設され、最終的に5施設が開設予定になっています。「放課後の子どもたちの居場所作り」という観点からも今後児童館の持つ役割や存在意義はますます大きくなっていくと思われます。

児童館研究の分野では、町田市を含めた各市の児童館事業についてその内容や運営方法などを調べ、分析していく予定です。その中で法人として将来的な児童館運営の可能性などをまとめていければと考えています。

各保護者会の方々、指導員それぞれが持つ児童館のイメージをふくらませていく中で、学童保育事業とはまた違った形での活動を研究していきたいと思えます。(那須)

利用者アンケート「満足度調査」

町田市の学童保育クラブの多くは、指定管理者制度によって運営されています。指定管理者制度は、民間活力の活用、地域の活性化、経費削減という社会の流れで進められています。私たちの法人も今後いつまで学童保育運営を続けていけるかどうか、保障はありません。

学童保育を利用する保護者の皆さんから支持をされる運営を、私たち法人が努力してつくりあげていくことが、今後の継続の力になっていくものと考えています。利用されるみなさんのニーズがどのようなものなのか、現状の問題点はどこにあるのかをアンケートを通して鮮明にて分析していこうと考えています。(北島)

☆広報委員会☆



広報委員会では、機関紙「くれよん」の発行と、ホームページの作成をおこなっています。

機関紙「くれよん」は法人事業、運営に関するPRをとおして法人への賛同者を広げ、地域に根差し、開かれた法人組織をめざす目的で、毎月発行していきます。会員のみなさんはもちろんのこと、町田市の子ども生活部や子どもセンター、近隣小学校、保育園、幼稚園など関係機関へ配布をしています。今年度よりスタートした子育て支援事業「ぶちくれよんひろば」に参加していただいた方々へも配布していきます。

ホームページ担当は各クラブのホームページの立ち上げをおこなっています。

ちょっと拝見



おおくらクラブ 七夕集会（7月6日）

おおくらクラブ毎年恒例の七夕集会にむけて、学童OBのお父さんが運んでくださった大きな笹に、飾りを作りました。はさみで切り込みを入れてからわくわくしながら開いて天の川を作ったり、ちょうちんや星などいろいろな飾りができあがりしました。

次の日には短冊に家族の健康、勉強や習い事、ペットのことなど自分の願いごとを託して笹につけました。笹を保育室と玄関に置くとその周りがパッと明るくはなやかに became.

そして、いよいよ七夕集会当日です。自分で作ったしぼり染めTシャツを着て学年ごとに笹をバックに写真を撮りました。Tシャツの色は毎年子どもたちの希望で決めますが、今年は、エメラルド、グリーン、オレンジ、黒、青、水色の5色。子どもたちが並んで着ていると、とてもカラフルでした。6月からデザインをかねて、輪ゴムを巻いて割り箸でとめて、染め粉の中に入れ、頑張ったTシャツを着てカメラの前でにっこりする子どもたちの表情はとても誇らしげでした。



その日のおやつメニューはジュースと七夕そうめんでした。そうめんの中にフルーツが入っていて、子どもたちは何回もおかわりしておいしそうに食べていました。

そして、七夕の歌を歌い終わった時に織姫と彦星が忙しいスケジュールの中、おおくらクラブに来て、七夕の紙芝居を交替しながら読んでくれました。

子どもたちからは「うわー」「かわいい」などの声がわきあがっていました。その後は紙芝居の4つの場面の中で織姫と彦星の二人が気に入っている場面を選ぶというカードゲームをしました。全部正解した子どもたちも数名いて、とても楽しい時間を過ごしました。



七夕集会は7月6日でしたが、七夕の7月7日おおくらクラブの子どもたちは、ぼっぼの森保育園の夏祭りに友情出演してロックソランを踊りました。その日は雨も降らず、すっきり晴れて夜空が見えました。

織姫と彦星が年一度の再会を果たすことが出来てみんなの願い事が叶うといいですね。

今後の予定

8月26日（日）	第1回 人事委員会	14:00～	文学館ことばらんど
9月 2日（日）	事務局会議	10:00～	文学館ことばらんど
	第22回 理事会	14:00～	文学館ことばらんど
9月 8日（土）	ソフトボール実行委員会	13:00～	わんぱく学童クラブ
9月10日（金）	調査研究委員会	19:30～	公民館 学習室1
	広報委員会	19:30～	公民館 学習室2
9月21日（金）	保護者会との懇談会	19:30～	公民館学習室 2

『くれよん』は保護者と指導員で構成された広報委員会が毎月発行しています。

バックナンバーの一部はホームページでご覧いただけます。<http://www.machida-gakudou.com/>